

## 「一遍聖絵に描かれる熊山遺跡」の考察

丸谷憲二

### 1 はじめに

平成26年11月22日の熊山遺跡一般見学会参加後、津曲真人氏から「一遍聖絵の福岡の市の背後の山に、熊山遺跡らしき絵が描かれている。以前から言われていたらしいのですが、信憑性がなく詳しく語る方にも出会えておりません。」との情報提供を受けました。

翌、11月23日に備前福岡郷土館(瀬戸内市長船町福岡)を訪問し、一遍聖絵「福岡の市」デジタル版を確認しました。一遍聖絵に熊山遺跡が描かれていました。しかし、背景への描写であり非常に分かりにくく熊山遺跡との断定は困難です。

### 2 一遍聖絵「福岡の市」デジタル版の確認

山の上に熊山遺跡らしきものが見えます。「誰が熊山遺跡を発見したのですか。」と質問したところ、「皆で話をしている熊山遺跡になった。」との説明でした。発見者の個人名は聞けませんでした。備前福岡観光ボランティアガイドの皆様の発見です。

時宗総本山 遊行寺 藤澤山無量光院 清浄光寺蔵(神奈川県藤沢市西富)の一遍聖絵デジタル版です。「赤外線照射観察法という方法で、赤外線を色々な角度から照射して撮影してあるので、どんなに大きく引き伸ばしても鮮明な画像になっています。」と臼井洋輔氏(吉備国際大学)は説明されていますが、この写真が限界です。

一遍聖絵巻四は、「吉備津宮神主の子息の妻女、一遍により出家を遂げる」として知られています。この絵の背景に描かれている山中に熊山遺跡が描かれています。



右上の山中に熊山遺跡

#### 2.1 中西厚氏の指摘

山の上に熊山遺跡らしいものはあるようですが、私には石積とは断定できませんでした。もし熊山遺跡の石積とすると、深山霊谷を描くと思いますが草木の生えていない山の上に描かれています。しかし、熊山の石積みが一遍上人の画に描かれているとは？・・・・面白い謎解きです。

(11月23日に備前福岡郷土館にて、一遍聖絵「福岡の市」デジタル版を確認後のコメント)

## 2.2 従來說 臼井洋輔説

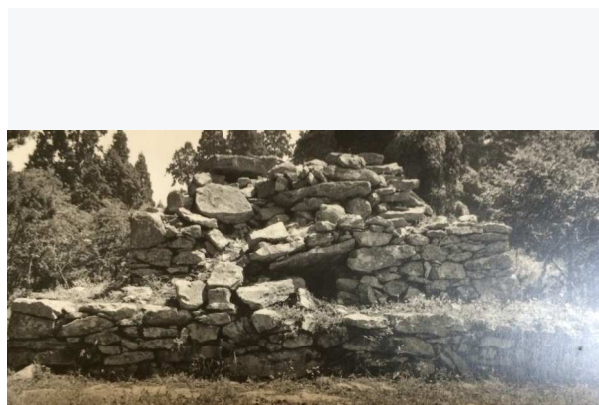
臼井洋輔氏は「一遍上人聖絵 福岡の市」解析に、福岡の市の季節の説明として「落葉した梢(こずえ)、ススキと紅葉した秋草が残って、遠景に雪山を描いている。ところを見ると冬季である。」、時刻の説明として「絵巻の左上を見ると、大半の松などの樹木の上の方がぼかされて表現されて、良く見るとその表現は上部が薄く霞むように途切れている。これは夕方黄昏時の昏(くら)いとぼりが文字通り降るように迫ってきていることの表現ではないかと思われる」と「樹木の上の方がぼかされて表現、遠景に雪山を描いている」と説明しています。

## 3 復元前の熊山遺跡

復元前の写真と山中の熊山遺跡の写真を比較してみましょう。復元修復は江国石材工務店(岡山市北区万成東町)により昭和49年(1974年)10~12月にかけて実施されました。



昭和初年頃「ふるさとの思い出」収録



昭和16年・潮見定秋氏撮影(星桃太郎氏復元)



平成26年11月22日 一般見学会



昭和48年調査準備写真(岡山県立図書館蔵)

## 4 一遍

一遍(1239年~1289年)は鎌倉時代中期の僧侶。時宗の開祖。「一遍上人」、「遊行上人(ゆぎょう)」、「捨聖(すてひじり)」と尊称されます。一遍上人が遊行した1278年は、第一回の元寇(1274年・文永の役)と第二回目の元寇(1281年・弘安の役)との中間年です。民衆は蒙古が攻めてきたらと戦々恐々としていた時代です。そんな時代に一遍上人は、時衆を率いて遊行を続け、民衆(含 下人・非人)を踊

り念仏と賦算（ふさん）とで極楽浄土へと導きました。その生涯は国宝『一遍聖絵』があますところなく伝えています。

#### 4.1 一遍聖絵と一遍上人縁起

一遍の行状を絵巻として描いたものが「一遍上人絵伝」です。歎喜光寺(京都府京都市山科区大宅奥山田)蔵・聖戒編の『一遍聖絵』全12巻と清浄光寺蔵の宗俊編の『一遍上人縁起(一遍上人絵詞伝)』全10巻の二系統に大別されます。現在、20本ほどが知られています。東京国立博物館蔵の国宝も転写本の一つです。

教団の根本聖典として重要視され転写本がさかんに制作され、原本の成立は、絵巻の最後の場面が嘉元元年(1303)12月までであり、『一遍聖絵』の奥書より、1299年(正安1年)一遍の弟子の聖戒が詞書を起草し、法眼の地位にあった画僧の円伊が絵を描いたものです。

### 5 『一遍聖絵』(歎喜光寺蔵)による比較



歎喜光寺蔵の『一遍聖絵』です。熊山遺跡の描写が絵師により少し異なります。副本の大半が、清浄光寺蔵の宗俊編の『一遍上人縁起(一遍上人絵詞伝)』全10巻の写しです。



歎喜光寺蔵

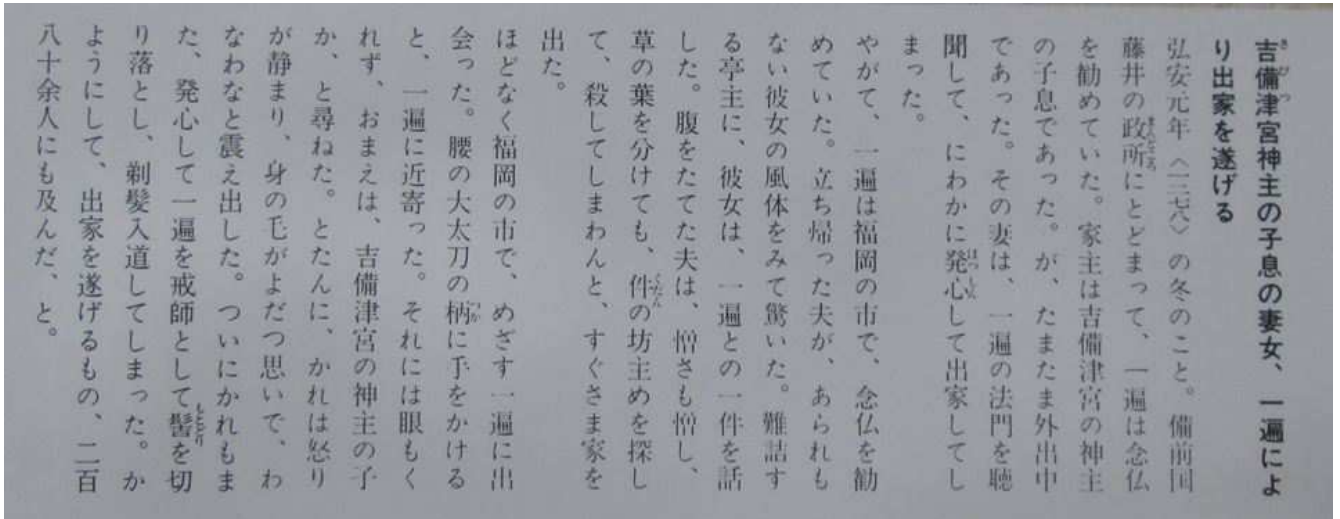


清浄光寺蔵

## 6 まとめ

熊山遺跡は1278年(弘安元年)の記録です。熊山遺跡の初見絵図です。原本成立は14世紀初めですが、転写本がさかんに制作され、現在20本ほどが知られています。原本は不明です。

歓喜光寺蔵の『一遍聖絵』と清浄光寺蔵を比較すると、熊山遺跡の描写が絵師により少し異なります。原本に熊山遺跡が描かれていました。しかし、転写した絵師が熊山遺跡を知らなければ、このように変化した絵になります。「原本に熊山遺跡が描かれていました。」と報告します。



## 7 参考文献

- ① 『一遍上人絵伝』清浄光寺蔵(神奈川県藤沢市)のデジタル版
- ② 『一遍上人絵 福岡の市を絵解きで文化探検しよう』臼井洋輔 備前福岡史跡保存会
- ③ 『一遍上人絵伝』日本絵巻大成 別巻 小松茂美他 昭和53年 中央公論社
- ④ 『国史大辞典1』昭和54年 吉川弘文館
- ⑤ 国立博物館所蔵国宝・重要文化財『一遍上人絵巻 巻第七』
- ⑥ 「一遍上人聖絵 福岡の市解析」臼井洋輔『文化財情報学研究第7号』平成22年 吉備国際大学 文化財総合研究センター紀要
- ⑦ 『熊山遺跡』潮見定秋調査 昭和45年8月11日
- ⑧ 『竪穴石室清掃及び実測』正岡主事実測 昭和49年10月
- ⑨ 『ふるさとの思い出写真集 昭和・大正・明治・備前』吉崎一弘・吉崎志保子編 昭和55年 国書刊行会
- ⑩ 『熊山遺跡』岡山県赤磐郡熊山町史跡熊山遺跡緊急調査概要 1974年3月 熊山町文化協会
- ⑪ 『熊山遺跡』岡山県赤磐郡熊山町史跡熊山遺跡修理報告 1975年1月 熊山町教育委員会

## 8 謝辞

「昭和16年・潮見定秋氏撮影(星桃次郎氏復元)」主審は、平成26年11月22日の一般見学会参加後、津曲真人氏より送付して戴きました。現在は熊山町図書館蔵です。